

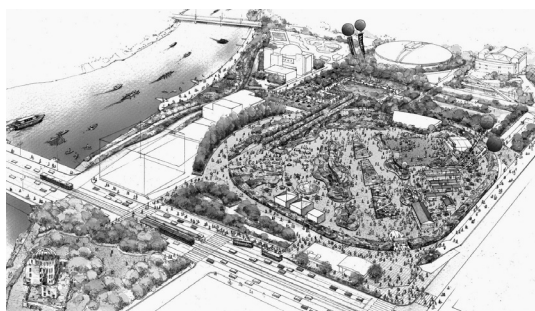
## —広島市—

## 第37回全国都市緑化ひろしまフェアにおける会場づくりについて

## 1. はじめに

被爆75年の節目となる2020年、国内最大級の花と緑の祭典である全国都市緑化フェアを3月19日から11月23日まで、「ひろしま はなのわ 2020」として広島県内一円で開催している。

メイン会場は、広島市中央公園の旧広島市民球場跡地を中心とする区域及びその周辺で、約300品種、18万本の花で彩り、広島ならではの花と緑であふれるライフスタイルを五感で体感していただける会場になるよう整備した。



メイン会場イメージパース

また、国営備北丘陵公園等4つの協賛会場と県内各地の125のスポットイベント会場では、それぞれの地域や季節ならではの花や緑の見どころや伝統文化等の地域資源の魅力を楽しんでいただける。

ここでは、「広島のをを結集してみんなでつくりあげる」をコンセプトに取り組んだ会場づくりについて紹介する。

## 2. 県民協働による会場づくり

このたびのフェアでは、基本方針の一つに「地域づくりの担い手の育成」を掲げており、とりわけメイン会場の整備にあたっては、県民団体、農業団体、民間企業、学校等が参加し、みんなの手でつくりあげる協働による会場づくりに取り組んだ。

具体的には、県内農業高校6校が種から育てた自慢の花苗で会場を彩るハンギングバスケット、県内すべての特別支援学校が育成等に参加し、来場者を出迎える花のプランター、幼稚園・保育園児が自ら植え付けに参加した花壇や県内小中学生に自分の住まわちをイメージしてデザインを募集した花壇など、多くの若者が関わり、活躍できる場を取り入れた。



農業高校フラワーハンギング 特別支援学校ウェルカムプランター

農業高校生が一同に集まりハンギングバスケットを仕上げる際には、日本ハンギングバスケット協会広島・島根合同支部の皆様のご指導のもと、会場周辺のまちづくり協議会を構成する民間企業にもご参加いただき、皆で汗を流し取り組んだ。作業当日はマスコミの取材も受け、多いに話題になった。

## 3. 被爆75年、緑の復興を伝える紙芝居

前述のほか、広島市の緑の復興をわかりやすく伝える紙芝居づくりにも取り組んだ。

これは原爆により廃墟となった広島市が、復興のため県内市町や全国に樹木の寄付を呼び掛けた「供木運動」の物語で、被爆から“75年間は草木も生えぬ”と言われた広島市が緑豊かな都市になったという歴史と、寄付をいただいた県内外の自治体への感謝の気持ちを、75年目の2020年に開催するフェアで多くの方々に伝えることができる作品に仕上がった。

この紙芝居は会場で上映するほか、後世に語り継がれる教育素材になることを願っている。

## 4. おわりに

県内すべての自治体が主催者となり開催する初の緑化フェアということで、多くの方々に広島の魅力を感じていただける絶好な機会となる。

来場者だけでなく、参加した皆様にも広島のおもてなしの心が育まれ、感動を与えられるフェアになるよう、閉幕まで全力で駆け抜けていきたい。

(広島市 都市整備局 緑化推進部 緑政課

全国都市緑化フェア推進係 川上 裕樹)